

NPO センスオブアース市民による自然共生パンゲア からのお知らせ

## 本年もよろしくお願ひ申し上げます。

### 2014年のはじめに



板二小・小川ビオトープ

「NPO法人センスオブアースは、4月で創立10周年を迎えます。10年間は、小さな歩みですが、小中学校から始まり、大学、保育園、区民のみなさんへプログラム学習が少しずつ広がってきました。

地球環境はこのままいくと、21世紀中に温度が、最悪の場合 2.6℃～4.8℃上昇し、陸上で極端な高温の頻度が増加、極端な降水が頻繁となる、二酸化炭素の上昇と世界平均気温の上昇はほぼ比例関係にある（IPCC第5次評価報告書 環境省）と報告されました。21世紀を背負う子どもたちや人々に環境学習がチョウの羽のように広がっていくよう、

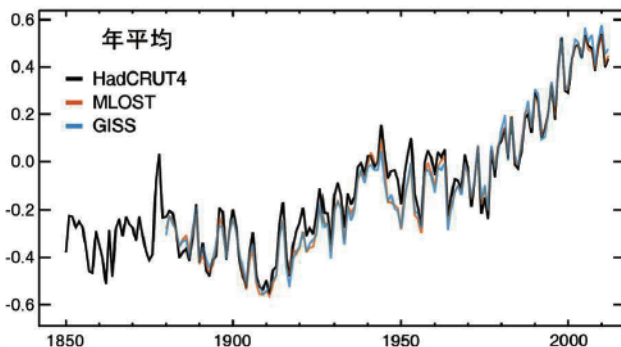


板橋二小5年生・これからの食生活

一歩ずつ、みなさまと協働してまいります。ご指導・ご支援よろしくお願ひ致します。」

NPO法人センスオブアース 代表 寺田 茂

### <世界の地上気温の経年変化>

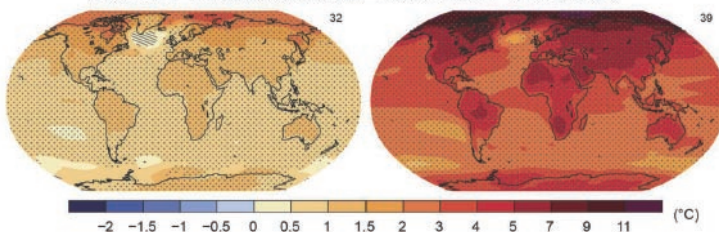


—英国気象庁による解析データ— 下の図 上報告

RCP 2.6

RCP 8.5

世界の地上平均気温の変化(1986～2005年と2081～2100年の差)



## 板橋区立 板橋第二小学校 環境教育研究発表会

### 1月28日(火) 1:45～4:30



「豊かに感じ、自分で考え、  
行動しようとする児童の育成」  
全学年公開

講演 佐々木洋氏  
「都市動物から学ぶ命のつながり」



長沼和人校長先生



飼育中のかわいいウサギ・何十羽も育てている

板二小全校児童の手作り 第二ビオトープ「自然の森」



## 長沼校長先生のお話 —「普段、学習は子どもの外にある感じ、学習が子どもの体のなかに入ってきた」

「板二小の環境委員会の子どもたちは、全校でつくった二箇所 of ビオトープの管理活動を始め、バタフライガーデンにミカン・カラタチ・サンショウを植え、アゲハチョウ、アカタテハ、コムスジ、ツマグロヒョウモン、ミヤマアカネ、ベニシジミなどが飛んでくるようになった。キャベツも植えモンシロチョウが集まる。鳥の巣箱も100箱つくった。

腐葉土コーナーも3カ所出来上がった。毎日子どもたちは生きものを発見しては、校長先生を始め、係の先生や担任の先生に、喜んで報告に来るようになった。教師と子どもたちの関係が、多角的に広がっている。鳥たちもヒヨドリ・ムクドリはじめセキレイ・メジロも集まってくる。

俳句も1年から6年まで、春夏秋冬、実際の自然を見て生き生きとつくり、言葉も自分で練り上げた言葉で表現するようになった。どんな子どもも。認められ、自信をつけている。



6年前期 日光の素晴らしさを伝えよう



4年・社会 くらしと水

板橋は自然が少ない。自然の喜びをほとんど味わっていない。6年間、自然環境豊かな中で触れさせたい。6年間、自然を生活の一部の中に取りこんで生活する。意識しない学校とする学校では、ちがってくる。板二小の子どもたちは登校したら、ビオトープの橋を渡る。登校門から、昇降口に行く間にビオトープがある。帰りは、一目、ビオトープを見て帰る。この行動を見ても、子どもたちの変容が見えてくる。

授業では、全ての教科の中に環境教育の要

素があることを考え、教科の中で環境教育を取り組むことができることを研究してきた。生活科・総合以外、国社算理、図音家庭、道徳全てで取り組むことができる視点が広がっていった。算数などでは、ごみの量、池の面積、みどりのカーテンの長さなど、取り組んだ。教科のねらいは、それを第一義に、環境教育の視点を入れることができた。」



3年・生活に生かす植物 みそづくり



2年・図工 冬の木のおまつり

## 板橋区立 蓮根第二小学校

# 学校・つくろう会・子どもたち・教師・保護者 ・NPO SOEによる幅広い協働

小川の土留めや粘土はり大変だったよ



### ～設立13年目のビオトープ小川の改修～

蓮二小ビオトープができてから、13年。この間、蓮二小にできた「ビオトープをつくろう会」が中心になって、子どもたち、先生方がビオトープの維持管理、改修などを行い守ってきたビオトープも、自然の変化と共に小川に水漏れが生じ、この度、上記の協働で、改修ミニ工事を行いました。センスオブアースも、支援し、一緒に、

小川の掘りおこし、荒木田の土で土留めを行い、両側を梁で留める作業を行い、最後に粘土をはり、11月16日～30日の3回の土曜日を費やして修理しました。特筆するほど頑張ったのは、低学年を中心とする子どもたち。楽しんでよく働くこどもたちに驚嘆！ この子どもたちがいる限り、ビオトープは安泰！ 子どもって土仕事大好きなんですね。

もともと、小川は校庭の固いダストを高学年の子もたちがなめるように削って作ったという苦心の成果。

これから小川の周りにはたくさんの野草が生え、メダカの学校が広がり、アズマヒキガエルとヤマアカガエルが卵を産みに来て、4月には、おたまじゃくしで、真っ黒な小川になることでしょう。

2年生・土くずし、土運びに真剣そのもの



# 第3回連続講座

## 「これからのエネルギー問題を考える」実施



12月14日(土)会場 板橋区立エコポリスセンター  
講師 東京学芸大学名誉教授 佐島 群巳氏

第3回目のテーマは今、国民的関心事のエネルギー問題。

### 「講演要旨」

1. 歴史に目を閉ざしてはならない。
2. エネルギー問題を語るには、19～20世紀の日本社会を見つめ直しながら、かつ、3.11の原発事故を冷静に見つめる

ことから始めなければならない。

3. グローバルな視点からエネルギー問題を考える。(グローバルとローカルの合成語) 過去に学ばないものは過去を繰り返す。

1945年終戦、本当のことが勉強できると思った。

経済成長20倍、エネルギー25倍、環境破壊公害が起り、大量生産、大量消費による環境革命が起きている。

### 《3.11 福島第一原子力発電所の事故》

○想定外一と言って、東電・経済産業省・東大物理学専門家は言い逃れた。

○学者・研究者は事故発生要因と対応に、無反応、無知、無関心であった。

有馬 朗人は、米留学中、原子爆弾の投下について、論争したが、安全には手が届かなかった。しまった、後始末の研究を全くしていないと正直に述べた。安全神話と言う隠ぺい体質に動かされ、市民は疎外されてきた。市民の責任はある。

生涯教育として幼い時からエネルギーへの関心と体験的活動を通じた探究学習、日常的なエネルギー利用に対する子ども自身主体的な理解に基づいた正しい価値判断と実践的行動力を身につける実践プログラムが必要だ。」幼児から、自然への感性を磨く。

<参加者のみなさまから>

○考えるだけでなく行動をとる先生のおことばに強く心を動かされました。 ○正直無関心でしたが少し興味を持ちました。知らないことばかりでした。 ○心広い視点からの講演で大変おもしろかった。国家秘密法によるこうした先生の発言が自由ではなくなるのが不安。 ○3分半で線を引き、コメントを書くというスタイルに感銘した。受け身な学習を変えられる。 ○実践的なワークショップを今後も期待。

○風力発電の装置、大学生でも楽しかった。○まずは知ることが重要。色々な面から、意見を自分なりに噛み砕くことがしたい。 ○風力発電教材の装置、感動した。



手作りの風力発電教材を説明する村松さん

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6052  
e-mail: info@npo-soe.jp url: npo-soe.jp